

立わかれないなばの山の嶺におふる松としきかば今かへりこん

〔大和物語上〕この男忠文子藤原みちの國へくだりけるたよりにつけて略中道にてやまひしてなん
しにけるととき、略中をんな命婦

まのづかのむまやくと待わびし戀はむなく成ぞしにけるとよみてなんなきける。

〔類聚名義抄二〕古ムカシヘ

〔段注説文解字古三上〕古故也略中从十口識前言者也識前言者口也至於十則展

〔類聚名義抄一〕往イニシヘムカシ 以往イニシヘ 既往イニシヘ 乃往同

〔書言字考節用集二時候〕往昔イニシ 上世同

〔神代卷直指抄一〕いにしへは、へはうつぼ字、いにしは去といふ義也。

〔日本釋名上時節〕古イニシヘ 今案、いにしはいぬる也、去の義なり、一説へは世也、へとよと通ず、いにし世也、

此説も又よし、

〔東雅天文〕古イニシヘ略中 イニシとは往也、へとは語助也春邊夕邊など

〔倭訓栞前編三〕いにしへ 古をいふ、往し方なり、むかしをむかしへといふが如し、祝詞に去前を

よめり、いにしへのむかしといへるは古昔の訓なるべし、

〔日本書紀神代〕古天地未剖、陰陽不分、渾沌如雞子、

〔萬葉集相聞〕柿本朝臣人麻呂歌四首

今耳之行事庭不有古人曾益而哭左倍鳴四、

〔萬葉集七歌〕詠河

古毛如此聞乍哉、偲兼此古河之清瀬之音矣、

〔類聚名義抄一〕往昔シムカ 往者同 往日同 往古同 〔同日〕昔イニシ 始ムカシ 在昔シムカ